

参 考 （仮称）札幌博物館基本計画（案）に対するご意見について

1 実施概要

公表資料：（仮称）札幌博物館基本計画（案）

（仮称）札幌博物館基本計画（案）概要版

募集期間：平成27年2月16日（月）～平成27年3月17日（火）（30日間）

資料の配布場所：

- ・札幌市博物館活動センター
- ・観光文化局文化部市民文化課
- ・総務局行政部行政情報課（市政刊行物コーナー）
- ・各区役所市民部総務企画課広聴係
- ・各区まちづくりセンター
- ・ホームページ：「（仮称）札幌博物館基本計画」（札幌市公式ホームページ内）

<http://www.city.sapporo.jp/museum/outline/kihonkeikaku.html>

募集方法：持参、郵送、ファックス、電子メール

2 ご意見の内訳

意見者区分：個人39名

提出方法分類

分 類	人 数
持参	3名
郵送	4名
ファックス	2名
電子メール	30名
合 計	39名

意見分類

分 類	件 数
序章	1件
第1章 札幌博物館の使命	6件
1-2 急激な社会環境の変化～社会的背景～	1件
1-3 札幌博物館の使命	5件
第2章 札幌博物館の基本テーマと対象領域	6件
2-1 札幌博物館の基本テーマ	1件
2-2 札幌博物館の対象領域	5件
第3章 事業活動計画	33件
3-1 事業活動の考え方	3件
3-2 事業活動の構造	3件
3-3 活動拠点（コア）における事業展開	24件
3-4 ネットワーク型ミュージアムの仕組み	3件
第4章 施設計画	35件
4-1 札幌博物館の候補地	21件
4-2 札幌博物館の諸室整備	14件
第5章 運営計画	20件
5-1 運営方式の考え方	8件
5-2 柔軟かつ開かれた運営体制	8件
5-3 誰もが気軽に利用できる開館形態	4件
第6章 整備推進方針	3件
6-1 市民みんなで考え、つくる	1件
6-3 実現に向けて	2件
資料編	2件
その他の意見	16件
計画全般に関すること	16件
合 計	122件

※ 1人で複数の意見がある場合は、それぞれ1件として集計しています。

3 ご意見の概要と札幌市の考え方

序章 これまでの経緯（1件）			
No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
1	序章 1 P1	財政事情はあるにせよ、博物館構想から20年以上たっても博物館の整備が実現されていないのは残念。開拓記念館拡充や北大総合博物館改修などが行われているが、札幌市は遅れている。	平成13年にソフト重視の博物館活動を先行して実施することになり、博物館活動センターを開設しました。それ以来、ここまで資料の収集や調査・研究が進み、さらに様々な普及・交流事業を実施していくことで、そのノウハウが蓄積され、博物館整備に向けた実績が着実に積み重ねられてきたと認識しております。 今後も、札幌博物館整備に向けて、様々な検討を進めていきたいと考えております。

第1章 札幌博物館の使命（6件）

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
-----	------	-------	---------

2. 急速な社会環境の変化～社会的背景～（1件）

2	第1章 2(3) P7	序章から第2章については、イメージしやすく方向性を理解することができた。 ただ、気になるのは、教育目的のほかに、文化や観光の役割を持った公立博物館が増えている状況と本文に記載があるが、観光客誘致のための博物館に成らないようにしてほしい。札幌博物館の視点とそのバランスは如何ほどか。 余談だが、ドイツで小さいが充実した博物館に行ってきた。海外から来る人たちのためにパンフレットを作る経費があるなら、地域の人達に良い情報を提供すると言い切り、その博物館の使命と視点をはっきり見ることができた。	本計画においては、札幌博物館を社会教育施設として、市民の生涯を通じた学習の場にするに軸足を置きつつ、同時に、観光資源としての役割を果たしていくことも想定しております。それぞれの役割については留意しながら、運営していく必要があると考えております。
---	-------------------	--	--

3. 札幌博物館の使命（5件）

3	第1章 3 P8	札幌博物館には、学芸員のみならず、ボランティアをはじめ有志が必要になるはずなので、そういった人材の発掘方法や将来の札幌を担う科学少年の育成プランが計画に盛り込まれれば、より計画の魅力が増すのではないかと。長く市民や旅行者に愛される博物館にするためにも、科学少年の育成⇒有志スタッフ発掘⇒スタッフ教育⇒潤沢なスタッフによる充実した運営と発展という流れを作るべき。	札幌博物館では、使命の一つに「創造性あふれる人材の育成」を挙げており、市民による自主的な博物館活動を支援し、札幌の魅力を高めていけるような人材を育成することを目指しております。 今後は、いただいた御意見も参考とさせていただきますながら、ボランティアや子どもをはじめとする人材育成についても検討していきたいと考えております。
4	第1章 3 P8～9	本計画における3つの使命に共感しており、特に「創造性あふれる人材の育成」については、市民が札幌の自然や歴史・文化に関心を持つ契機として、また、自主的な活動を活性化する意味で、最も重要な使命と考える。	「創造性あふれる人材を育成」するためには、札幌博物館を市民の知的好奇心を満たす出会いと交流の場にしていくとともに、活動の場を札幌博物館のみならず、関係機関などへと広げていく必要があると考えております。 そのために必要となる具体的な展示内容や事業などについて、今後さらに検討を進めます。
5	第1章 3 P8～9	札幌市のように約200万人が住む大都市で、近郊にはヒグマ・エンシカなど野生動物が生息し、豊平川にはサケが遡上する自然環境がある地域は、世界的に見ても稀で、さらに、年間5mの積雪がありながら都市の基本機能を損なうことはほとんどないなど、自然との共生システムは、大きな観光資源としてもっと世界に発信してもよいのではないかと。 札幌博物館は、自然史系博物館として、世界的にみて貴重な札幌の自然環境や自然と人の共生について学術的に示すとともに、その自然を後世に伝承する人材育成の拠点としての使命を持ってもらいたいと期待している。	御指摘いただいた点は、札幌の独自性を示す特徴の一つと認識しており、札幌博物館では、さらに札幌の自然とその独自性について学術的な解明を深めながら、その成果を未来に継承し、創造性あふれる人材の育成にも役立てていきたいと考えております。
6	第1章 3 P8～9	創造都市宣言をした札幌市としては、これから創られる博物館も新たな価値創造の場であって欲しいと思っている。街がにぎわい、観光・経済の発展、教育的視点を併せ持つ、アジア全域や全世界に目を向けたポジティブなテーマパークのイメージが必要であると思い、早急に具体化・検討することを提言する。	札幌博物館は、活力ある地域づくりに寄与する活動拠点として、また、札幌の魅力を発信し、にぎわいを創出する観光資源としての役割を果たしていく必要があると考えております。 今後は、いただいた御意見も参考に、新たな価値を創造し、観光に寄与できる博物館になるよう、様々な検討をしていきます。
7	第1章 3 P8～9	動植物はしっかりと次の世代にバトンをわたしているのに人間だけがそのことに気付いていない。博物館は世代の枠を超えて、ハラハラドキドキのリフレッシュできる場であって欲しい。	本計画では、札幌博物館を、多くの市民が出会い、様々な情報や刺激を受ける場としていく必要があると考えており、いただいた御意見についても参考とさせていただきます。

第2章 札幌博物館の基本テーマと対象領域（6件）			
No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
1. 札幌博物館の基本テーマ について(1件)			
8	第2章 1 P11	本テーマ「北・その自然と人」は、自然環境の保全が叫ばれている今日、豊かな自然が残る札幌が目指す博物館のテーマとしてふさわしいと思う。	大規模な自然災害などにより、市民の自然に対する関心はますます高まってきていることから、本テーマに基づきながら、市民の皆様とともに、札幌の自然・歴史・文化などについて、その独自性を明らかにしていきたいと考えております。
2. 札幌博物館の対象領域 について(5件)			
9	第2章 2 P12	札幌博物館が北海道博物館、北大総合博物館と役割分担が異なる旨明記されており、さらに新たな博物館が必要かという懸念が払拭された内容になっていると感じた。	札幌博物館を整備していく上では、既存の北海道大学総合博物館と北海道博物館と明確に差別化していく必要があると考えております。
10	第2章 2 P12	来館者を飽きさせない、面白い博物館にするために、北海道博物館や北大総合博物館と異なる事業展開を行う必要があると考える。	したがって、対象領域や特徴に加え、展示や事業内容などを工夫していくことで、他館との差別化を図れるよう、今後も検討を進めていきたいと考えております。
11	第2章 2 P12	北海道博物館との違いを明確にし、札幌博物館は自然史をメインとした博物館であることを積極的にアピールすべきである。特に、博物館にそこまで関心がない人向けに広報活動や出前授業等の一層の充実が必要である。	札幌は地球規模で見ると中緯度にあり、寒冷な環境と温暖な環境それぞれに適応した生物が共存するなど、様々な独自性を持つ都市であることから、札幌博物館においては、北海道博物館とは異なり、自然史という視点から、札幌の魅力アピールしていく博物館にしていきたいと考えております。 また、広報活動や出前授業等についても、いただいた御意見を参考にしながら、様々な取り組みについて検討していきます。
12	第2章 2 P12	東京国立博物館、国立科学博物館、江戸東京博物館と比べると、札幌博物館は国立科学博物館に近い位置付けと思われる。長く愛される博物館とするためにも、北海道博物館との明確な棲み分けをし、科学博物館としてのカラーを強調すべき。	国立科学博物館は、自然史及び科学技術史に関する中核的研究機関ですが、札幌博物館は自然史の視点から札幌の自然・歴史・文化について調査・研究などを行っていく博物館を目指しております。 また、北海道博物館が「人間史の博物館」を特徴としているのに対し、札幌博物館は「自然史系博物館」であることなど、異なった特徴を持つ博物館であると考えておりますが、今後も相互に協議を行い、さらに明確に棲み分けをしていきたいと考えております。
13	第2章 2 P12	大きな都市には博物館があり、その都市のことが大体わかる。札幌博物館は、自然環境、歴史、市内の他博物館など一カ所で判ると、札幌市の顔として存在する意義があり、子どもからお年寄りまで知識を与えることができる。市内には各所には、小さな記念館や資料館が点在しているが、どこも細々と有志の力で維持しているのが現状であり、熱心な支え手がいなくなると資料の散逸も避けられない。札幌博物館には、自然科学系だけでなく、人文系の資料も預かる受け皿となってほしい。	札幌博物館では、自然史の視点から札幌の自然・歴史・文化を明らかにし、市民が札幌の独自性を総合的に学ぶことができる場にしていきたいと考えております。 今後は、いただいた御意見を参考とさせていただきますながら、記念館や資料館などの地域の歴史や文化、資料の保管方法に関する助言や様々なサポートなどについて検討していきたいと考えております。

第3章 事業活動計画 (33件)			
No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
1. 事業活動の考え方 (について(3件))			
14	第3章 1 P13	札幌市は、雪を克服して通常の経済活動を営む、世界的にも例を見ない大都市であることから、創造都市さっぽろの博物館では、雪をテーマとした「雪・ミュージアム」で、アートと自然科学を融合すべきである。	札幌市は積雪地域における稀有な大都市であることから、雪は札幌の独自性を示す重要な要素であると認識しております。 博物館活動センターでは、市民や民間の団体と共催し雪をテーマに様々な事業を実施してきた実績もあり、札幌博物館の事業活動を考えていく上で、雪をテーマとして各施設等と連携し、企画やプログラムを展開していくことも可能であると考えております。 具体的な事業内容につきましては、いただいた御意見も参考とさせていただきますながら、今後検討していきたいと考えております。
15	第3章 1 P13	博物館を中心とした札幌市の発展を目指すためには、市民参加が必要であり、地域コミュニティやソーシャルキャピタルを生み出す仕組みづくりをしてほしい。 [※ソーシャルキャピタル…地域における人々の信頼関係や結びつきのこと]	本計画では、人とつながり、街にひろがるネットワーク型ミュージアムをコンセプトとしており、札幌博物館で生まれたグループや個人の活動を積極的に支援することにより、グループや個人が市内各地で多彩な活動を展開し、さらに、新たなネットワークを構築することで、活動が地域に根差していく仕組みづくりについて、今後検討していきたいと考えております。
16	第3章 1～3 P13～16	札幌博物館の特色を出そうとしていることは感じられるが、北大総合博物館も自然史系展示が充実しているため、違いや差別化の出し方が難しく感じ、同じような展示内容にならないか心配している。	北大総合博物館においても自然史系の展示は充実しておりますが、大学開学以来の研究者の研究成果の保管と活用が目的であり、一定の地域を対象に、総合的な観点から展示しているものではありません。 具体的な展示内容については、今後検討していきますが、北大総合博物館との差別化については、十分に意識していきたいと考えております。
2. 事業活動の構造 (について(3件))			
17	第3章 2 P13	他施設との連携は重要であり、北大植物園、札幌管区気象台とも連携してはどうか。	本計画では、博物館活動を札幌博物館の中だけで完結させず、様々な関係機関との連携強化により、博物館活動を札幌の街全体へ広げていきたいと考えております。 いただいた御意見も参考とさせていただき、御指摘の機関との連携についても検討していきたいと考えております。
18	第3章 2 P13	西岡公園を中心に自然観察を楽しんでいるのだが、西岡公園は月寒丘陵の自然を保ち、貴重な自然林と湿原が観察できる場所で、博物館使命と共通の使命を持っていると思う。そのため、市街地にある博物館ではスペースなど制約が考えられることから、西岡公園を博物館野外展示・研究実験エリアに位置付けて連携を強める体制を基本計画に加えてほしい。	本計画では、博物館活動を札幌博物館の中だけで完結させず、様々な「つながり起点(サテライト)」関係機関との連携強化により、博物館活動を札幌の街全体へ広げていきたいと考えております。 西岡公園につきましても、「つながり起点」のひとつとして重要な拠点であると考えており、今後どのような活動を展開していくのかについて検討をしていきたいと考えております。
19	第3章 2 P13	考古分野は、札幌市埋蔵文化財センターに一任するのか。どうせなら1か所に集めた方がよい。	札幌市埋蔵文化財センターで収集・保管している資料は、札幌の歴史を語る上で、重要であると認識しており、今後、札幌博物館と札幌市埋蔵文化財センターとの関係性やそれらのあり方などについて、いただいた御意見も参考とさせていただきながら、検討していく必要があると考えております。
3. 活動拠点(コア)における事業展開 (について(24件))			
20	第3章 3 P14～20	札幌博物館の事業展開を3つのコンセプトに分けており、いずれも重要なコンセプトと考える。そのうち、ハード面と思える展示事業は5つのテーマに沿って素晴らしいものになることを期待している。また、ソフト面と言える多様な講座や体験事業、市民企画展事業などについては、博物館活動にとって最も重要であり、規制にとらわれることなく、自由な発想と様々な工夫のもとでの展開を期待している。	札幌博物館では、様々な講座や体験事業などにより、市民が身近な自然に目を向け、博物館活動が市民に浸透していくような事業展開を目指しております。 具体的な事業展開につきましては、本計画策定後、いただいた御意見なども参考にさせていただきますながら、さらに検討を進めていきます。
21	第3章 3 P14～20	講座や体験事業は、様々なジャンルを用意し、市民が自由に参加できるよう、定期的、常設的に開催することが望ましい。また、講師についても学芸員ばかりではなく、市民を活用することも、市民の主体性誘導には必要と考える。 なお、市民は非日常的体験の講座に関心を寄せることが多く、体験メニューのある講座を企画する努力が必要と考える。	

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
22	第3章	生活居住地域に隣接している藻岩山原生林について、展示する価値があると思う。	国の天然記念物でもある藻岩原始林・円山原始林については、札幌の独自性を構成する資産の一つとして重要であるとされており、これまでも博物館活動センターで植生及び動物生態の調査を行い、今後も、継続的に調査を実施していきたいと考えております。 なお、具体的な展示内容については、本計画策定後、いただいた御意見も踏まえ、検討を進めていきたいと考えております。
23	第3章	計画書の中で、自然と人類の共生を謳う以上、緑被率や地下水脈、河川等の都市化に伴う現状をきちんと説明することは必要。 市街地の緑被率に関しては、全国での最低レベルです。 観光客の誘致等の絡みで、受けはよくないでしょうが、これもまた札幌の現実です。	本市の緑被率を含む植生、地下水脈、河川等については、さっぽろの自然景観の形成やさっぽろの形成史に関連する重要な要素とされていることから、具体的な展示内容について、検討を進めていきたいと考えております。
24	第3章	厳しい財政事情を考慮すると、目玉となるような展示品の購入は厳しいと思うので、展示方法など工夫するために、関係者だけではなく、その道のプロに依頼することも検討する必要があると考える。	今後、限られた財源の中で、札幌ならではの魅力を最も効果的に伝える展示内容になるよう検討していきたいと考えております。
25	第3章	バーチャルミュージアムとしての立ち位置で、展示には所蔵品に限らず、実物借用や仮想CGなどを積極的に検討してはどうか。	札幌博物館では、札幌の自然を実感してもらえるような、実物大の標本など、「本物」の迫力や質感にこだわった展示を考えております。 具体的な展示については、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、検討を進めていきたいと考えております。
26	第3章	エントランス展示については、予算などの制約にとらわれることなく、理想どおりに実現して欲しい。	エントランス展示については、来館者が思わず足を止めてしまうような展示構成にしていきたいと考えておりますが、具体的な展示内容につきましては、いただいた御意見なども参考にさせていただきながら、さらに検討を進めていきたいと考えております。
27	第3章 3(1)② P15	さっぽろの自然景観の形成についてアニメーションで紹介する際には、科学的に丁寧に説明する内容にしてもらいたい。	
28	第3章 3(1)② P15	計画書のサブテーマ2「札幌の生命と生物の進化」では、「人類に繋がる脊椎動物の進化」をメインとして、先カンブリア時代から第四紀までの主要な古生物各種、特に恐竜などの古脊椎動物の化石標本を多数展示して欲しい。	本計画に掲載している展示構成については、札幌の独自性を紹介するものとして、現時点で想定している一例として挙げたものです。 具体的な展示内容については、本計画策定後、今回いただいた御意見なども参考にさせていただきながら、検討していきたいと考えております。
29	第3章 3(1)② P15	利用者への訴求手段として、主要な展示物を、人気が高い巨大恐竜など大型爬虫類の全身骨格標本にすると良い。	
30	第3章 3(1)② P16	収蔵展示(ミドルヤード展示)の解説の中にある「リアルタイム」の意味がわかりにくいと感じる。	本計画では、「リアルタイム」とは、新たに採取された標本を随時追加していく、という意味で使っておりますが、いただいた御意見を踏まえ、以下のように修正します。 ⇒【本文修正 16ページ】 『収蔵展示(ミドルヤード展示)』『(中略)札幌の自然の現況と生物多様性がリアルタイムで実感できるものにします。』を『(中略)札幌の自然の現況と生物多様性が実感できるものにします。』に修正します。
31	第3章 3(1)② P14	生きる上では、自然の仕組みを子どものころから学ぶことが必要であり、学校教育だけでは不足すると思われる自然の仕組みを学べる場として博物館に期待している。特に、日本は地震・火山列島であり、自然とエネルギーの関わりについて学べる施設にしてもらいたい。	札幌博物館を整備することにより、子どもから大人まで幅広い世代が、札幌を中心に自然の仕組みを学ぶことが可能になります。 具体的な展示内容については、いただいた御意見も踏まえ、今後検討を進めていきたいと考えております。

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
32	第3章 3(1)② P14～16	「市民とともに札幌の自然・歴史・文化の独自性を明らかにしていく」とあるが、展示内容の中に「歴史」・「文化」が入っていないように見える。 市民をはじめ、他都市等からの観光で札幌を訪ねてくる方に対し、自然史系だけの博物館で満足してもらえると考えているのか。自然史系だけでなく「歴史」や「文化」を含めた総合博物館の建設を望む。	札幌の歴史や人にも自然や環境が深く関わっていることから、札幌の歴史や文化について、サブテーマ展示のうち、(4)さっぽろの交流史、(5)さっぽろの形成史—において、自然史の視点から触れていくことは必要であると考えております。 具体的な展示内容については、今後さらに検討を進めていきます。
33	第3章 3(1)② P14～16	サブテーマ5「さっぽろの形成史」は、まちづくりに焦点を当てたもので、自然史博物館で取り上げる必要があるか疑問。「まちの形成」や「歴史」「人物」の詳細に関しては、札幌市資料館に譲るべきと考える。 サブテーマに関しては、資料収集の方向性とも合わせて内容を精査した方が良いと思う。	
34	第3章 3(1)② P15～16	札幌市南区の中新統砥山層からはカイギュウなどの大型動物化石の他に新第三紀の花粉化石群も産出しており、植物化石群の変遷を理解するのに役立つ。 高校地学では植生の変遷や石炭に触れていることから、植物化石や微化石を使って現在の植生が形成されるまでの過程と植物化石群の変遷を扱った展示があると、教育内容の関連付けもできると考える。	本計画に掲載している展示構成については、札幌の独自性を紹介するものとして、現時点で想定している一例として挙げたものです。 具体的な展示内容については、本計画策定後、今回いただいた御意見なども参考にさせていただきながら、検討していきたいと考えております。
35	第3章 3(1)② P14～16	札幌博物館では札幌市付近の自然を扱う以上、近年市民の自然災害や防災への関心が高まっていることから、ハザードマップと関連させて、洪水災害や土砂災害に見舞われそうな地域のジオラマなど二次資料を展示してはどうか。 また、札幌市には「月寒断層」が存在するといわれており、これに関連した展示があっても良いと思う。	札幌の自然景観や環境は、過去の自然現象の蓄積により形成されたものと認識しております。 札幌博物館では、今後も、過去の自然現象に関する資料の収集・保存、調査・研究を行い、その成果を発信・活用することが重要となると考えており、いただいた御意見も参考とし、地域の身近な課題などに関連した展示についても検討していきます。
36	第3章 3(1)② P14～16	5つのサブテーマが交錯し、内容が類似して非常にわかりにくい。過去から現在、さらに未来に向けての課題のように時系列を辿った方が理解しやすいと思う。	本計画に掲載している展示構成は、大きく過去から現在へと時系列になるような展開を想定しておりますが、今後、具体的な展示内容について、今回いただいた御意見も参考にさせていただきながら、整理した上で、より分かりやすい展示となるように検討していきたいと考えております。
37	第3章 3(1)② P14～16	札幌の形成史では、『札幌の原風景』と言える明治初期をジオラマやCG等で再現してはどうか。	札幌の原風景を再現することは、札幌の形成をわかりやすく伝える方法のひとつであると認識しておりますが、具体的な展示内容については、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、検討を進めていきたいと考えております。
38	第3章 3(2) P18	各区の各地域には、資料収集に協力できる施設や地元の歴史を研究されている方がいるので、その方々の生の声を聞いたり、資料提供を求めてはどうか。	各地域において、地元の歴史を研究する施設や機関、人々からの生の情報は重要であると考えております。 いただいた御意見を参考とさせていただきながら、地域の人材や資料の活用方法について、検討していきたいと考えております。
39	第3章 3(3) P19	つながり創出事業の「つながり」という言葉や「活動を街に広げる」などの耳触りのよい言葉が並んでいるが、「つながり」が本質的な目的だと言えるのか。	札幌博物館では、市民が博物館活動に参加することで、人やグループとの接点生まれ、そのつながりから新たな事業や企画が生み出されるような好循環が、街のいたるところで展開されることを目指しており、事業活動の柱のひとつと考えております。
40	第3章 3(1)② P14～16	札幌市付近は、夏緑樹林と針葉樹林の両方を見ることができ、生物群系の移行帯であり、札幌の植生の興味深さを示す展示が必要である。 高等学校の「生物基礎」では、生物群系(バイオーム)や植生の遷移を扱っており、多くの高校生が履行しているが、新教育課程では生物以外の理科教員も教壇に立つことができ、その意義が十分に伝えられていないこともあるようだ。博物館で展示・企画・教育を行うことに大きな意義があると思う。	御指摘いただいた事項は、札幌の自然における独自性の一つであると認識しており、本計画の使命や役割としてふさわしい内容と考えます。 また、学校教育において博物館をより有意義に活用していただくための方策については、本計画策定後、今回いただいた御意見なども参考にさせていただきながら検討していきたいと考えております。
41	第3章 3(2) P18	①収集・保存、②調査・研究では、偏った地域の資料収集や調査・研究にならないように空間的にバランスの良い資料集めをして欲しい。また、札幌周辺の小中高と連携し、自然教育から一歩踏み込んだ授業などの機能を担ったり、継続的調査ができる体制を整える必要があると思う。また、③成果の発信・活用では、博物館紀要を発行し、一般市民の調査研究が発表できる場を設けて欲しい。	本計画においては、地域課題解決事業として、札幌の過去から現在までの資料を幅広く収集・保存し、調査・研究を行うことで、市民とともに自然と人の関わりを明らかにしていくことを目指しております。 また、その成果の発信や活用につきましても、いただいた御意見を参考とさせていただきながら、市民の調査・研究の場の提供について検討をしていきたいと考えております。 なお、学校教育において札幌博物館をより有意義に活用していただくための方策につきましても、今後検討を進めていきます。

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
42	第3章 3(3) P19	高等学校は小中学校と違って博物館を利用することが少ないと思うので、高等学校も博物館を利用しやすいように展示充実の他、学習内容の単元ごとに貸出標本セットを用意したらどうか。	本計画では、博物館活動を札幌博物館の中だけで完結させず、高等学校を含む様々な関係機関との連携強化により、博物館活動を札幌の街全体へ広げていきたいと考えております。 高等学校の博物館利用の促進については、いただいた御意見を参考とさせていただきながら、学校教育において札幌博物館を有意義に活用していただくための方策について、今後検討していきたいと考えております。
43	第3章 3(3) P19	近隣の小学校等と連携し、博物館を利用した授業を積極的に行い、今後の博物館の学校利用の道筋を作ってはどうか。 博物館の展示や解説を通し、子どもたちが札幌に興味や愛着を持ってくれるような授業が博物館の協力でできるととても良いと思う。	学校教育において札幌博物館を有意義に活用していただくための方策については、今後、いただいた御意見を参考とさせていただきながら、検討していきますが、展示内容や事業展開を工夫していくことで、多くの学校から愛着を持って利用していただける博物館としていきたいと考えております。
4. ネットワーク型ミュージアムの仕組み について(3件)			
44	第3章 4(2) P21	博物館事業に関わる市民に対する支援については、事業などが円滑に行われるように、博物館と市民の役割分担を明確にし、博物館として支援できるメニューを明確にしておくことが必要と考える。	博物館活動をされる市民やグループに対する支援については、いただいた御意見の趣旨も踏まえた上で、市民が街全体で博物館活動を展開しやすくなるような支援メニューについて、さらに検討を進めていきたいと考えております。
45	第3章 4 P21	この計画に示される「ネットワーク型ミュージアム」は、今後地域の博物館のモデルになると思う。今まで博物館などの公共施設は、その施設だけで、完結していたが、それでは活動に限界があり、市内の博物館相当施設や体験活動ができる施設、研究機関などをネットワークすることで、札幌という地域を面として活用できる、地域活性モデルの構築が期待される。	札幌の自然・歴史・文化など、その独自性を明らかにしていくためには、札幌博物館における、調査・研究などに加え、関係機関や人と人のグループとの関わり、ネットワークが不可欠であると考えております。 今後は、いただいた御意見にあるような地域活性のモデルとなっていくよう、ネットワーク型ミュージアムの展開について、さらに検討していきます。
46	第3章 4 P21	第3章以降は、札幌博物館の建物が完成した後の活動方針の様に見受けられるが、「人とつながり、街にひろがる 札幌の未来に貢献する」博物館を実現するためには、「人」の介在なくしては成立しないと考える。そのため、人と人を結びつける仕掛けづくりが、いち早く取り組むべき課題と考える。そのための人的資源の有効活用を提案する。	本市においては、博物館の開設に向けた準備として、平成13年に博物館活動センターを開設。以来、市民とともに収集・調査などの活動を展開し、人と人を結びつける仕掛けづくりに取り組んできました。 今後も、「人とつながり、街にひろがる、札幌の未来に貢献する」博物館を実現するため、人材育成など、人的資源の有効活用について、十分に意識していきたいと考えております。

第4章 施設計画 (35件)			
No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
1. 札幌博物館の候補地 について(21件)			
47	第4章 1 P23	博物館候補地については、地下鉄西11丁目駅に近い、この立地は極めて適切であり、この候補地での設置が実現されるよう強く希望する。	
48	第4章 1 P23	博物館候補地については、本計画の案が総合的な視点から最良と考え、賛成する。	
49	第4章 1 P23	博物館候補地については、北大植物園や大通公園、円山公園など自然に触れる場所が近くにあり、市民のアクセスに最高の場所と考えるので、大賛成。欲を言えば、もう少し広い敷地であれば、なお良い。	
50	第4章 1 P23	博物館の立地条件としては、交通アクセスの良い都心にあることを優先してほしい。	
51	第4章 1 P23	博物館の候補地である「さっぽろ芸術文化の館」の跡地は、交通量が多く、「北・その自然と人」の基本テーマに相応しくないため反対する。 北1条西12丁目街区(さっぽろ芸術文化の館)周辺は、観光都市札幌の今後の中核を担うMICE戦略の中で最重要エリアであり、コンベンション施設が最も相応しいと考える。 博物館については、自然をメインテーマに据え、人やネットワーク機能、市民や観光客の集客性、周辺文化施設との親和性などの観点から、中島公園が最適地だと思う。中島公園であれば、市電乗車率の向上や中島公園駅の利用客増加につながり、公共交通の需要喚起も見込むことができると考える。	博物館の候補地については、市民の利便性や観光客の周遊のしやすさに最も重点を置き、市民による様々な活動が街全体に広がることによる、街の活性化やにぎわい創出などの効果を見込んで候補地として位置付けたところです。それに加え、館のテーマを実感できる場所や、一定の広さを確保できることなども考慮しております。 今後は、いただいた御意見も踏まえた上で、さらに都心全体の土地利用や「北1条西12丁目街区」の活用方法などについて、全市の視点も含めて議論を重ねていくことで、最終的な博物館の立地場所を確定していきたいと考えております。
52	第4章 1 P23	博物館候補地の北1条西12丁目街区が最適と思わない。もっと郊外の方が良いと考える。	
53	第4章 1 P23	市の中心部には、北海道大学総合博物館や植物園内にも博物館があり、市民が博物館を必要としているとは思えない。 市の中心部は、交通の便が良いため、多くの人が必要としている施設を作るべきと考える。	
54	第4章 1 P23	この計画は、場所ありきの計画で、「さっぽろ芸術文化の館」跡地に博物館でも作るかとか考えられない。 博物館候補地である北1条西12丁目街区には、中央区役所を移転して欲しい。	
55	第4章 1 P23	博物館の候補地として、新さっぽろ地区のまちづくり計画地域への設置を提案する。市住跡地が広大にあり、文教ゾーンもある。さらに青少年科学館や水族館、開拓の村、森林公園や各学校があり、これらと連携することで、子どもの学習の場として相乗効果が期待され、修学旅行も呼べる。交通の便もよく、近隣市町からも来館しやすいなど自然史系博物館にふさわしい。博物館施設単体で人を呼ぶ時代ではない。 また、現在の博物館候補地は、エリアとして学会等で使いやすい環境であり、コンベンション等を視野に高度利用すべき。	
56	第4章 1 P23	博物館の場所は、都心部でなく郊外にして、郊外の活性化を図るべきである。	

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
57	第4章 1 P23	博物館のコンセプトが極めて不明確であり、都心部に立地することも理解できないことから、計画案に反対する。 札幌の自然がテーマであるなら、芸術の森や青少年科学館と連携し、郊外を活性化する方が良い。もっと議論を深め、市民意見を聴き、再考を願う。	<p>【再掲】</p> <p>博物館の候補地については、市民の利便性や観光客の周遊のしやすさに最も重点を置き、市民による様々な活動が街全体に広がることによる、街の活性化やにぎわい創出などの効果を見込んで候補地として位置付けたところです。それに加え、館のテーマを実感できる場所や、一定の広さを確保できることなども考慮しております。</p> <p>今後は、いただいた御意見も踏まえた上で、さらに都心全体の土地利用や「北1条西12丁目街区」の活用方法などについて、全市的な視点も含めて議論を重ねていくことで、最終的な博物館の立地場所を確定していきたいと考えております。</p>
58	第4章 1 P23	博物館を旧厚生年金会館の場所につくるのは絶対に反対で、他の地域で良いと思う。 中央区は人口増加しており、区民のための土地が空いていないため、北1条西12丁目では中央区のための施設の設置を望む。	
59	第4章 1 P23	博物館は、絶対反対。 なぜ北1条西12丁目街区につくらなければならないのか。	
60	第4章 1 P23	札幌博物館建設については、反対する。 北1条西12丁目街区については、大型避難場所として中央区民センターなどの建設をするべき。	
61	第4章 1 P23	ニトリ文化ホール跡地への博物館建設は反対する。 理由として、①博物館活動センターの見学者が減少していることから、開館時に一時的に見学者が増えでも数年後に減少することが予想されることや、②芸術の森のように郊外に建てた方が、札幌の成り立ちの形状を実際に見ることができ、落ち着いた環境で見学できる。③中央区は他区と違い、全市の中核施設などが多く、地域のための施設が少ない。特に桑園地区などは、年々人口が増え、幼稚園や学校などの施設が不足すると思われる一などの観点から、博物館は郊外に建設すべきと考える。	
62	第4章 1 P23	ニトリホール跡地には、コンベンション的な複合施設を望む。博物館は郊外でも十分やっつけられる。 中央区には、ちえりあ的なコミュニティを目的とした施設がないので、そういった施設でも良いと思う。	
63	第4章 1 P23	札幌博物館は街中にあることが重要と考えるので、今の案で進めて欲しい。 郊外という案もあると思うが、思うように集客できない可能性がある。	
64	第4章 1 P23	博物館の候補地として、さっぽろ芸術文化の館の場所は絶対に反対する。交通量のある場所であり、その場所までの道のりが好ましくない。 候補地の希望としては、「ユースの森」や「札幌市資料館」が良いと思う。	
65	第4章 1 P23	博物館が「北1西9」にできれば理想的だが、博物館開設に年数がかかるようであれば、南区真駒内には、大きな文化施設がなく、小学校が統合された跡地利用も考えられることから、真駒内地区に展示室を開設してはどうか。	
66	第4章 1 P23	博物館候補地は、さっぽろ芸術文化の館跡地は反対で、青少年科学館の近くが良い。	
67	第4章 1 P23	博物館計画は夢のある内容であるが、博物館候補地と時期が不可解である。 博物館候補地の「さっぽろ芸術文化の館」は周辺の施設と併せてコンベンション会場として使われている現状があり、将来閉館され博物館になることは、国際都市さっぽろとしてコンベンション機能を損なうことは不利益と考える。また、耐震上の閉館であれば、博物館より中央区役所の移転・建て替え等を早急に検討して頂きたい。	

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
2. 札幌博物館の諸室整備 について(14件)			
68	第4章 2 P23～24	親子の憩いの場として、またにぎわい創出のため、建物のエントランス部分や前庭を利用した活動、イベントを行える広いスペースを取ることが必要と考える。	博物館の諸室や規模につきましては、立地場所や敷地面積などにより、その状況も変わってきますが、様々な事業活動を展開していく上で、必要なスペースを確保したいと考えており、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、今後検討を進めていきたいと考えております。
69	第4章 2 P23～24	多目的に利用できる市民活動用の部屋をできるだけ多くとることを期待します。活発な市民活動を促すためにも必要と考えます。	
70	第4章 2 P23～24	博物館の資料が様々な形で活用され、その価値が発揮されるためには、バックヤードが重要であると考えます。十分な広さの収蔵庫と資料整理設備を備えたバックヤードを整備してもらいたい。また、以上の観点から、ミドルヤード展示に期待している。	博物館の標本は、博物館の価値や評価に直結する、市民共有の財産であり、確実に後世に伝えていかなければならないものであることから、その研究や保存を行うバックヤードについても、重要なものであると認識しております。 いただいた御意見も参考にさせていただきながら、今後、バックヤードやミドルヤード展示について検討を進めていきたいと考えております。
71	第4章 2 P23～24	施設の前庭も博物館との視点に立ち、大通公園から入り易い工夫を施していただきたい。	施設整備については、いただいた御意見を参考とさせていただきながら、検討していきたいと考えております。
72	第4章 2 P23～24	自ら学ぶ市民を育成するためには、大学の「ラーニングコモンズ」や「アクティブラーニング」の手法を取り入れ、「自ら学ぶ市民」を育成するための環境整備が必要。 [※ラーニングコモンズ…複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。 ※アクティブラーニング…教員による一方向的な講義形式の教育と異なり、学修者の能動的な学修への参加と取り入れた教授・学習法の総称]	自ら学ぶ市民を育成するためには、市民が多くのお会いによって様々な情報や刺激を得ることが必要であると考えており、札幌博物館がそのような場となるように、いただいた御意見も参考とさせていただきながら、今後人材育成について、どのような支援が行えるのかについても検討していきたいと考えております。
73	第4章 2 P23～24	情報弱者(子ども、高齢者、障がい者、外国人)に配慮した情報伝達と空間づくりを目指して欲しい。	本計画では、情報伝達の一例として、ユビキタス展示における多言語対応や、空間づくりの一例として、ユニバーサルデザインに配慮した諸室整備を挙げておりますが、子どもや高齢者などの情報弱者へのきめ細やかな対応につきましては、今後十分に検討していきたいと考えております。
74	第4章 2, 3 P23～25	企画展示への要望ですが、大型の展覧会(恐竜展等)を開催・誘致できるような大規模な展示施設を希望します。	博物館の諸室や規模につきましては、立地場所や敷地面積などにより、その状況も変わってきますが、様々な事業活動を展開していく上で、必要なスペースを確保したいと考えており、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、今後検討を進めていきたいと考えております。
75	第4章 2① P24	展示エリアでは、話題性を目的とした映像メディアの多用を避け、自らが外へ出て観察や調べたいように、実物に触れるような展示をたくさん作って欲しい。 また、全ての展示に英語(及び中国語)の解説を付ける必要があると思う。	札幌博物館では、札幌の自然を実感してもらえるような、実物大の標本など、「本物」の迫力や質感にこだわった展示を考えております。 具体的な展示については、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、検討を進めていきます。 また、多言語対応についても検討をしていきます。
76	第4章 2② P24	調査・研究エリアでは、化石クリーニングや標本作製の様子など研究の裏側を来館者に見える構造にして欲しい。	化石クリーニングなど日常の博物館活動も、来館者に感動を伝える重要な要素と考えております。 いただいた御意見も参考にさせていただきながら、標本作製など研究の裏側を伝えることができる構造について、今後検討していきます。
77	第4章 2④ P24	収集・保存エリアで、将来を見据えて増設スペースを確保する視点はとても賛同できる。 普及・交流エリアでは、飲食可能な交流空間を是非とも確保してほしいと熱望する。	
78	第4章 2③ P24	博物館で働く職員が、職種に関係なく自由に入出入りし、食事・休憩や歓談することで情報交換できるような空間が休憩室がバックヤードにあると良いと思う。	博物館の諸室や規模につきましては、立地場所や敷地面積などにより、その状況も変わってきますが、様々な事業活動を展開していく上で、必要なスペースを確保しつつ、利用者の利便性にも配慮していきたいと考えており、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、今後検討を進めていきたいと考えております。
79	第4章 2③ P24	札幌博物館の規模について、理系の研究は文系と比べて設備が必要となる場合が多いので、各研究に十分な広さが必要と考える。	

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
80	第4章 2③ P24	ミュージアムショップでは、お土産的なものも必要だが、教員が教材とし使える標準類やガイドブック、子どもたちの自由研究用教材なども充実させてほしい。	
81	第4章 2③ P24	ミュージアムショップは、キャラクターものに頼らず、お土産屋という側面と同時に、自然観察や調査研究の道具などが揃うような実用的な機能も果たして欲しいと思う。 また、ミュージアムグッズについては、博物館好きや雑貨屋、クラフト作家などのアイデアを聞く機会を設けて欲しい。 カフェは、博物館に興味がない人でもくつろげる空間にして、カフェ⇒ミュージアムショップ⇒展示見学の流れのファンを増やす工夫してほしい。	ミュージアムショップで取扱い商品につきましては、学術的背景を適切に反映したものであることを基本としたいと考えており、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、他の博物館等の状況なども踏まえて、その内容や種類について検討していきたいと考えております。 また、カフェにつきましては、いただいた御意見も今後検討していきたいと考えております。

第5章 運営計画 (20件)			
No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
1. 運営方式の考え方 について(8件)			
82	第5章 1 P26	運営方式について、経費削減と称して実施されている指定管理者制度は文化・芸術活動にとっては不適切であり、本計画の実現に当たっては、直営による運営を強く希望する。	
83	第5章 1 P26	運営方式を直営とするか指定管理者方式とするか難しい選択だが、施設の健全で良質な維持管理や事業運営の円滑化のためには直営方式が良いと考える。 しかし、展示室の運営管理や事業の企画・実施、市民活動の調整などは、効率的で自由な発想が期待される指定管理者方式が適当ではないかと考える。	
84	第5章 1 P26	運営方式について、それぞれのメリット・デメリットを詳しく検討した資料を提示して欲しかった。また、札幌から新たな運営方式を提案できるような議論をして欲しい。 館内が企業広告だらけになることや、期限付き職員の寄せ集め施設になることは避けて欲しい。	
85	第5章 1 P26	札幌博物館の運営は、札幌市直轄であるべき。 独立行政法人化の流れがあるが、事務処理量が膨大化し、疲弊している。博物館本来の「創造的役割を果たす」ことができなくなる。 なお、運営の効率化の視点で、多くの博物館が実施しているような「友の会」導入も検討すべき。	
86	第5章 1 P26	運営方式の考え方について、今は金が余っている時代ではなく、予算の制約があるだろうから、知恵を絞って作りだしていく事に意義があると思う。	
87	第5章 1 P26	運営方式については、「指定管理者制度」以外が望ましいと思う。指定管理者制度は、非正規職員の割合が高くなりがちで、指定管理者が変わることで正規職員の雇用も不安定になる可能性があり、長期的な運営を考えると問題が多い。	
88	第5章 1 P26	経費節減だけ考えて指定管理者に丸投げするのは、良い施設、良い運営にならないと思う。	
89	第5章 1 P26～27	多くの公共施設に導入されている指定管理者制度は、4年程度で契約更新があることから、雇用不安定で、優秀な人材を育てることに困難な状況を作り出している。 札幌博物館の本体機能は直営とし、専門性の観点から学芸員と、また博物館機能を最大限発揮する観点からコーディネーターは札幌市職員として直接雇用し、マネジメントを行う必要があると考える。 また、教育普及部門については、指定管理者制度導入の余地を残して施設機能の活性化を図るよう提案したい。	運営方式につきましては、「直営方式」や「指定管理者方式」、「地方独立行政法人化」における、それぞれの長所・短所について十分に検討した上で、他都市の状況なども検証し、専門家やいただいた御意見も参考とさせていただきながら、札幌博物館の運営に最適と考えられる方式を採用していきたいと考えております。

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
2. 柔軟かつ開かれた運営体制 について(8件)			
90	第5章 2(1) P26	事業活動に関する計画はすばらしいと考えており、この内容を実現していくためには、優れた人材の配置は欠かせないと考える。	
91	第5章 2(1) P26	ソリューション事業、リレーション事業のコンセプトは素晴らしいが、それらを実際に展開していく上で、有為な人材の確保やコーディネーターの配置が欠かせないと考える。 また、コーディネーターについては、博物館の事業展開から生まれ育った市民がふさわしいと考える。	
92	第5章 2(1) P26	博物館の資料が市民に活用されるためには、資料管理の専門家が絶対に必要と考える。 標本番号は一括管理されていても、標本そのものの保管は個々の研究者のやり方や趣向に任されている例が多く、博物館の資料全体について明確な責任者を置いているところが少ないことが、日本の博物館の弱点であると指摘されている。 標本管理者と研究者がそれぞれの専門性を発揮して協力する体制を望む。	
93	第5章 2(1) P26	最近の気象状況や気候変動により、札幌を取り巻く環境も徐々に変化していることから、多方面の生物層に変化が生じてくると想定される。現状の調査研究や記録を市民に伝えていく事を考慮すると、自然系学芸員の多数増員を希望する。	職員配置や組織、必要な人材確保につきましては、国や他都市の例などを検証しながら、札幌博物館における事業活動を展開していく上で必要な人員体制を整えつつ、活動内容にふさわしい人材を確保していかなければならないと考えております。いただいた御意見も参考とさせていただいた上で、今後も検討を進めていきます。
94	第5章 2(1) P26	博物館運営に携わるスタッフは異動が多い一般職は好ましくない。 スタッフは、学芸員資格は当然として、幅広い教養や関心を持つ、多くのスタッフを確保する必要があると思う。 スタッフは、教育的活動も行うので、視野が広く、自分の専門分野以外でも研修・情報収集でき、さらに人脈作りに長けた、若いスタッフが確保できると良いと思う。	
95	第5章 2(1) P26	博物館のあり方について、思い、願う点として、博物館の標本づくりの専門知識を持った技術スタッフを配置して欲しいということがある。「本物」がもつ感動と説得力は、博物館の魅力そのものであり、デジタル化された社会においても、膨大なアナログな「モノ」の収集と保存は欠かせない。 日本では、学芸員は一般的に博物館資料をどう標本化するかという技術を身につけておらず、標本化の具体的な過程やその妥当性についての議論が深まっていない。 一方、欧米の博物館では、学芸員の他に標本を扱う技術スタッフである「標本土」がおり、標本に関する技術的な業務全般を担う。本来はこのような標本専門スタッフがいてこそ、質の高い標本の収集・保存・保全活動や独自性のある普及・展示が可能になる。 近年、博物館ボランティアによる標本作製活動が盛んになってきている情勢も考慮すると、札幌で新しい博物館を建設するに当たっては、是非標本に関する知識を持った技術的専門スタッフの配置を検討していただきたいと思う。	
96	第5章 2(2) P27	市民の博物館活動に対する責任や役割の認識、博物館への愛着心醸成の観点から、「参画登録制度」に賛成する。	子どもから大人まで札幌博物館に愛着を持っていただく上で、参画登録制度は有効であると考えており、いただいた御意見も踏まえ、具体的な制度内容について検討を進めていきます。
97	第5章 2(2) P27	事業の企画や運営に市民参画の機会を設けるのは、大変良いが年齢構成や職業等に偏りが見られないよう工夫が必要と思う。 また、大人だけでなく子ども達からの意見を取り入れられる仕組みにすると良い。	
3. 誰もが気軽に利用できる開館形態 について(4件)			
98	第5章 3(1)(2) P28	開館日については、利用や活動のしやすさの観点から、土曜・日曜・祝日は開館し、休館日は平日と整備等のための特別休館日、年末年始のみとするのが好ましい。開館時間については、9時から17時と考えるが、大規模なイベント開催や観光シーズン、夏休み期間(6～8月)は時間延長も検討するなど特色ある博物館にしていくために、休館日を月1回もしくは月2回など高いサービスを目指して欲しい。	開館日や開館時間につきましては、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、利用者のニーズを把握するなどして、多くの人が利用しやすい開館形態について、検討を進めていきたいと考えております。

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
99	第5章 3(3) P28	利用料金ですが、入館料は無料としても、講座などへの参加料の徴収は、参加者の自覚や責任の認識、運営経費の創出のためにも検討すべきと考えます。	利用料金(入館料・参加料等)につきましては、いただいた御意見も参考とさせていただきますながら、国や他都市の施設などについても検証しつつ、受益者負担の観点、さらに、収蔵資料の維持管理の観点、市民が気軽に足を運びやすく、継続的な活動を行いやすいといった観点などを総合的に考慮しながら決定していく必要があると考えております。
100	第5章 3(3) P28	利用料金は、継続的サービスを考慮すると、大人だけでも有料にすべきと考えるが、年間パスポートなど、何度でも通いやすい仕組みを作ることが望ましい。	
101	第5章 3(3) P28	駐車施設の有無は集客に影響を与えるため、近隣の駐車場や屋上駐車場など、可能な限りの駐車スペースを確保してもらいたい。また、低廉な駐車料金設定について検討すべき。	駐車スペースにつきましては、障がいのある方や団体利用など一定の規模は必要であると認識しておりますが、一方で、本計画では、博物館候補地を都心部とし、公共交通を利用した「つながり起点(サテライト)」へのアクセスしやすさを特徴のひとつとしていることから、公共交通機関の需要喚起などの観点も踏まえ、総合的に検討を進めていきたいと考えております。

第6章 整備推進方針 (3件)

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
1. 市民みんなで考え、つくる について(1件)			
102	第6章 1 P29	今の博物館活動センターが持つ「市民に開かれた博物館活動」を継承するとともに、今まで以上に参画する市民が自分たちでつくりあげる札幌博物館というイメージを持つことができる仕組みを期待する。	本計画では、市民みんなで札幌の「自然と人の関わり」を探求し、札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館を目指しております。そのため、これまでの博物館活動センターにおける活動に加え、市民参画登録制度など新たな仕組みを導入することで、これまで以上に、市民による創造的かつ自主的な博物館活動を支援していきたいと考えており、今後その実現に向けてさらに検討を進めていきたいと考えております。
3. 実現に向けて について(2件)			
103	第6章 3 P29	変な愛称やニックネームをつけるのをやめてほしい。公募が良いわけではない。	博物館の愛称等につきましては、いただいた御意見も参考とさせていただきますながら、今後検討していきたいと考えております。
104	第6章 3 P29	札幌博物館を手掛ける建築家について、学校や図書館を多く手掛け、子どもたちが自発的に遊ぶ空間づくりに優れている方をお願いすべき。	施設の整備については、今後具体的な検討を進めますが、いただいた御意見を参考にさせていただき、子どもたちが気軽に集い、交流できる場にしていきたいと考えております。

資料編 (2件)

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
105	資料3 サブテーマ1 P32	白亜紀～中新世の海の時代の記述に「石狩平野」の用語があるが、当時石狩平野が既にあったという誤解が生じると思うので、「石狩海峡」に変更すべきではないか。	本計画に掲載している展示構成については、札幌の独自性を紹介するものとして、現時点で想定している展示の一例として挙げたもので、具体的な展示内容については、今後検討していきたいと考えておりますが、いただいた御意見を踏まえ、誤解を生じないよう、以下のように加筆します。 ⇒【資料編修正 32ページ】 『サブテーマ1のシナリオ案』-1 白亜紀(1.4億年～6600万年前)～中新世(2300～533万年前)の海の時代(中略)③石狩平野の基盤形成-日本海・オホーツク海の開口と太平洋の沈み込み-』と加筆します。
106	資料7 P42	施設計画の参考資料として、類似施設の諸室面積の割合の資料が提示されているが、数字の羅列に過ぎない。例えば、入館者数から見た運営評価など、専門家の立場からの多様な情報提供についても付加すべき。	施設規模、諸室、運営方法等につきましては、今後、博物館における展示・事業計画を具体的に検討していく中で改めて提示させていただきたいと考えております。

その他（16件）			
No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
107	計画全般	博物館整備に関する検討が長期に渡っていたので、その設置を危惧していたが、計画を読んで札幌にふさわしい内容であることが理解できたため、早期の実現を期待している。	
108	計画全般	実現が待ち遠しい素晴らしい計画であり、早期かつ、着実な計画実施を願っている。	
109	計画全般	博物館の将来像として、以下のようなものを目指してもらいたい。 ・北海道初の本格的な自然系総合博物館 ・多数の展示品が見られる非常に充実した内容の博物館 ・全国トップクラスの規模を誇る大規模な自然系博物館 ・質・量ともに国際的なレベルの自然史博物館 ・多くの人々に末永く愛される、魅力ある博物館	
110	計画全般	札幌市の博物館建設にかかる検討は時間が長きに渡り、計画の煮詰が過ぎた感があるが、本基本計画はこれまでの議論を活かした、地域性や特徴があり、かつ、実現性のあるプランと感じた。	
111	計画全般	博物館の全体的構想については、大きな夢を感じています。博物館を市民の活動拠点にしていく事を重要な目標にしていることも素晴らしいと思います。博物館に対して新しいイメージが創られていく事を望みます。	
112	計画全般	博物館整備にかかる検討が本格化してきたことは、素晴らしいと考える。 郷土資料を系統的に収集し、資料の散逸を防ぐとともに、郷土がどういった経緯で成り立って来たかという事を、次世代に継承することは、大学設置に匹敵するくらいの価値がある。また、市としてこのような施設を整備することで、これまでとは違った角度から研究が進むことも期待される。 様々な環境問題などを正しく検証する意味でも、歴史を学び、環境などを保護する研究がなされれば、良いと考えている。	本計画においては、これまでの博物館活動センターにおける成果や課題、さらに社会情勢なども踏まえ、①市民とともに札幌の自然・歴史・文化の独自性を明らかにし、市民の郷土に対する愛着を育むとともに、②創造性あふれる人材を育成し、③市民が集い、交流する場となり、活力ある地域づくりに貢献する—博物館を目指しております。 今後、いただいた御意見を参考とさせていただきながら、具体化に向けて検討を進めていきたいと考えております。
113	計画全般	札幌市立博物館設置に関しては賛成する。	
114	計画全般	具体的な内容が明らかではないが、市立の博物館は必要と考える。	
115	計画全般	札幌市に新しい自然系博物館をつくる計画が具体化したことに、大きな期待をもって応援する。	
116	計画全般	全体を通して、本計画に賛同する。 博物館活動センターはこれまで限られたスタッフと運営体制の中で十分な役割を果たしてきたと考えており、博物館を利用したことのない人達による「まちづくり」と称する他都市のコピー&ペーストな空間づくりではなく、今後も市民からの意見を反映させ、利用者目線に立った施設となるように望んでいる。	
117	計画全般	1日も早く博物館ができることを祈っている。 たくさんの課題があると思うが、応援している。	
118	計画全般	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」や「さけ科学館」、「北方自然教育園」を札幌博物館と統合し、スケールメリットを生かせる施設にすることが望ましい。	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」や「さけ科学館」「北方自然教育園」については、教育的効果などの観点からそれぞれの立地にあることが望ましいという考え方のもとで設置された施設です。 したがって、現段階では、御指摘の施設との統合については、考えておりませんが、施設を検討していく上で、スケールメリットという視点は重要であるとと考えております。

No.	該当箇所	意見の概要	札幌市の考え方
119	計画全般	札幌博物館建設については、反対する。 入館料をとるならば、他教育機関や大学等施設と連携したとしても、そもそも継続的な入館者数が望めないと考ええる。	私たちを取り巻く社会環境は日々変化しており、近年では大規模な自然災害の発生により、自然に対する関心が高まってきており、また、少子高齢化の進展などに伴う孤立化した住民の増加などにより、地域コミュニティの活性化が求められるようになってきております。 そうした中で、本市においては、平成13年に博物館活動センターを開設し、以来市民のみならずさまざまな事業を実施することで、博物館活動に関するノウハウを蓄積し、博物館整備に向け実績を積み重ねてきました。 このような社会的背景や博物館活動センターにおける活動成果などを踏まえ、札幌市では、札幌博物館を整備することにより、郷土への愛着と誇りを育むとともに、創造性あふれる人材を育成し、さらに街づくりにも貢献していくことができる博物館が必要になると考えております。
120	計画全般	計画案は全体として非常によくできていると思う。 札幌は道央部の周辺地域の中心的役割を担っているが、その歴史は周辺地域から多くの物資の供給や人的貢献により発展した経緯があることを意識し、自然について資源という視点から幅広く取り上げて欲しい。	札幌の街の形成や成り立ちについて考えていく上では、周辺地域から石炭など多くの天然資源の供給や人的貢献を受けたことは、欠かせない事実であることから、いただいた御意見を参考とさせていただきますながら、札幌や周辺地域を含む石狩低地帯に関する展示内容について、今後検討していきたいと考えております。
121	計画全般	全体を通して、札幌博物館の目的や使命、今後の方向性についてよく継められており、改めて博物館活動センターの地道な活動に敬意を持った。	これまでの博物館活動センターにおける成果や課題、さらに社会情勢なども踏まえ、①市民とともに札幌の自然・歴史・文化の独自性を明らかにし、市民の郷土に対する愛着を育むとともに、②創造性あふれる人材を育成し、③市民が集い、交流する場となり、活力ある地域づくりに貢献する一博物館を目指しております。 今後も具体化に向けて検討を進めていきたいと考えております。
122	計画全般	本計画を拝見し、長期の検討と、相応の準備がされていることがわかり、基本テーマにも賛同点が多数ある。北海道博物館や北大総合博物館との棲み分けも十分配慮され、札幌から世界に発信するという期待感も感じられる。	札幌博物館では、自然史の視点から札幌の自然・歴史・文化に関する札幌の独自性を明らかにしていきたいと考えており、今後も他の博物館との役割分担などについて、十分留意しながら、本計画を着実に実現することができるよう検討を進めていきたいと考えております。